

平成26年度施策評価調書

整理番号	19
評価担当課	建設水道部 下水処理場

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	資源の有効利用(3-11-3)		
総合計画の位置づけ	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
	主要施策	11	下水道・個別排水の整備

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	処理場から発生する下水汚泥を普通肥料として、農地等に使用することにより、資源の有効利用を図る
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	下水汚泥を有機肥料として、汚泥分析により安全性を確認し、資源としての有効利用および安定供給の維持
施策の課題	現在、名寄有機入り肥料組合員は、16名ですが高齢化、後継者不足に伴う耕作地の減少、輪作により毎年の利用状況の変動により利用実績が減少傾向にある。

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H23	H24	H25	目標年度(28年度)
汚泥資源の有効利用	有機入り肥料組合(利用量t)	目標値	-	-	-	-
		実績値	352	120	476	-
		進捗率	-	-	-	-
		目標値				
		実績値				
		進捗率				
		目標値				
		実績値				
		進捗率				
		目標値				
		実績値				
		進捗率				

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
A	平成24年度利用実績120tと減少理由は、汚泥分析結果で、ヒ素の公定規格(50mg/kg)に対し(40mg/kg)の結果に基づき、自主規制による普通肥料出荷停止に伴う減少。そのほかは、普通肥料の出荷は順調である。	A:計画目標に向けて順調に推移 B:計画目標に向かって概ね順調 C:計画目標に向けて進捗はやや遅れている D:計画目標に向け進捗は遅れている

